

インドネシア教育大学の教員養成について

—— 理数学部を中心に ——

西 谷 泉

群馬大学教育学部数学教育講座

(2006年9月13日受理)

The Teacher Training in Universitas Pendidikan Indonesia

—— Mainly in the Faculty of Science and Mathematics ——

Izumi NISHITANI

Gunma University, Maebashi, Gunma 371-8510, JAPAN

(Accepted 13th September, 2006)

I. はじめに

筆者はこれまでインドネシアの学校教育や教員養成大学における教育の状況について現地調査し、その結果を論文として公にしてきた。その中でインドネシアの教育の特徴と課題を明らかにしてきた。またインドネシアにおける取り組みの中で、我が国の教育や教員養成に大いに参考になる内容も少なからずあった。これらは積極的に取り入れるべきであると提案してきた。

さて本論では、インドネシアの教員養成大学の中心的な存在であるインドネシア教育大学（バンドン市）における教員養成の現状について現地調査した結果をまとめて報告するものである。この中には、群馬大学教育学部の教員養成にとって参考になる点が多々あった。大いに生かしたいと考える。

現地調査期日：平成18年（2006年）9月6日～16日

調査場所：インドネシア教育大学（Universitas Pendidikan Indonesia）

II. インドネシア教育大学について

1. 沿革について

インドネシア教育大学は、ジャワ島西部のバンドン市において、1954年10月20日に教員養成機関（PTPG, Perguruan Tinggi Pendidikan Guru）としてスタートした。1958年11月25日にPTPGがパジャジャラン大学に統合され、その中の教員養成・教育学部（FKIP）になった。それがさらに

FKIP-A と FKIP-B に分割され、同時に教員養成機関 (IPG) が誕生し、1963 年に大統領令が出て、これら 3 機関が 1 つになり、5 学部を持った新たな教員養成機関 (IKIP Bandung) となり、1999 年 10 月 7 日にインドネシア教育大学 (UPI, Universitas Pendidikan Indonesia) になり、現在に到っている。

2. 学部・大学院について

(1) 学部について

インドネシア教育大学の学部は、以下の 6 学部である。

- 1) 教育学部 (FIP, Fakultas Ilmu Pendidikan)
- 2) 社会科学教育学部 (FPIPS, Fakultas Pendidikan Ilmu Pengetahuan Sosial)
- 3) 言語芸術教育学部 (FPBS, Fakultas Pendidikan Bahasa dan Seni)
- 4) 数学自然科学教育学部 (FPMIPA, Fakultas Pendidikan Matematika dan Ilmu Pengetahuan Alam) 本論文では、この学部を簡単に「理数学部」と表現している。
- 5) 技術・技能教育学部 (FPTK, Fakultas Pendidikan Teknologi dan Kejuruan)
- 6) 運動健康教育学部 (FPOK, , Fakultas Pendidikan Olaharga dan Kesehatan)

各学部・大学院研究科の学生・院生数などについては後述する。



写真 1 大学生門



写真 2 理数学部



写真 3 社会科学教育学部



写真 4 教育学部

学部における学生数は以下のように変遷している。殆ど全ての学部で学生数が増加の一途を辿っている。新入生数も年々増加している。

表1 学生総数

学 部	年 度				
	2000/2001	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005
教 育 学 部	5,249	6,782	6,846	7,614	8,770
社会科学教育学部	2,139	2,304	2,734	2,987	3,219
言語芸術教育学部	2,859	3,266	3,750	4,126	4,116
数学自然科学教育学部	2,392	2,523	2,757	2,926	2,935
技術・技能教育学部	2,041	2,426	2,724	3,035	3,103
運動健康教育学部	1,026	1,150	1,373	1,614	1,734
合 計	15,706	18,451	20,184	22,302	23,877

表2 新入生数

学 部	年 度				
	2000/2001	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005
教 育 学 部	1,982	2,272	2,401	2,874	3,889
社会科学教育学部	558	699	689	798	887
言語芸術教育学部	908	995	860	999	1,058
数学自然科学教育学部	599	683	601	781	801
技術・技能教育学部	599	652	649	817	715
運動健康教育学部	308	341	449	353	381
合 計	4,954	5,642	5,649	6,622	7,731

また学部・大学院の教員数は、以下のようになっている。教員には、種別と等級がある。

表3 2004年 教員種別人数

教員種別	学 部						合 計
	FIP	FPIPS	FPBS	FPMIPA	FPTK	FPOK	
優 等 教 員	22	18	8	6	1	3	58
上 級 講 師	87	86	100	50	48	36	407
講 師	63	74	69	88	73	29	396
助 手	37	29	30	45	35	21	197
技 術 員	12	14	15	14	8	6	69
合 計	221	221	222	203	165	95	1127

表 4 2004 年 教員等級別人数

学 部	等 級									
	II d	III a	III b	III c	III d	IV a	IV b	IV c	IV d	IV e
教 育 学 部	1	24	26	20	44	50	20	15	10	11
社 会 学 科 教 育 学 部	0	19	22	32	45	41	29	15	11	7
言 語 芸 術 教 育 学 部	0	28	15	34	41	45	35	18	4	2
数 学 自 然 学 科 教 育 学 部	0	24	35	50	38	31	15	5	3	2
技 術 ・ 技 能 教 育 学 部	0	16	30	34	38	24	13	9	0	1
運 動 健 康 教 育 学 部	0	9	17	13	17	24	9	3	2	1
合 計	1	120	145	183	223	215	121	65	30	24

国立大学教員の等級については国の統一基準があり、昇級するための条件が細かく規定されている。その条件を満たさなければ昇級できない。表 4 の等級は II a から IV e に向かって昇級する。この等級によって給与額が定められている。

(2) 大学院研究科について

大学院は 19 の研究科から成っている。それぞれの研究科は修士課程や博士課程を有している。具体的な研究科の内容は以下の通りである。

- 1) 教育行政研究科 (修士・博士課程)
- 2) カウンセリング研究科 (修士・博士課程)
- 3) カリキュラム開発研究科 (修士・博士課程)
- 4) 一般教育評価研究科 (修士・博士課程)
- 5) 障害児教育研究科 (修士課程)
- 6) 学校外教育研究科 (修士・博士課程)
- 7) 社会科学教育研究科 (修士・博士課程)
- 8) 自然科学教育研究科 (修士・博士課程)
- 9) インドネシア語教育研究科 (修士・博士課程)
- 10) 英語教育研究科 (修士・博士課程)
- 11) 運動教育研究科 (修士・博士課程)
- 12) 数学教育研究科 (修士・博士課程)
- 13) 日本語教育研究科 (修士課程)
- 14) 美術教育研究科 (修士課程)
- 15) 言語研究科 (修士課程)
- 16) ビジネス経営研究科 (修士課程)
- 17) 財政教育研究科 (修士・博士課程)
- 18) 技術・技能教育研究科 (修士課程)
- 19) フランス語教育研究科 (修士課程)

表5 大学院生総数

課 程	年 度				
	2000/2001	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005
博 士 課 程	353	454	419	554	572
修 士 課 程	1,327	1,302	1,133	1,526	1,263
合 計	1,680	1,756	1,552	2,080	1,835

(3) 学年暦について

〔2006年度〕

〈前期〉

履修登録 7～8月

(学部によって時期は異なる)

授業開始 9月1日

中間試験 11月6日～10日

授業終了 12月23日

期末試験 2007年1月1日～12日

教育実習(PPL) 9月1日～12月23日

〈後期〉

履修登録 12月～2007年2月

(学部によって時期は異なる)

授業開始 2007年2月1日

中間試験 2007年4月2日～6日

授業終了 2007年5月26日

期末試験 2007年6月4日～15日

教育実習(PPL) 2007年2月1日～6月22日

社会奉仕活動(KKN) 2007年7月～8月



写真5 理数学部入学オリエンテーション



写真6 数学科入学オリエンテーション

筆者が訪問した時期は9月であり、新学期がスタートしたばかりで、キャンパス内では新入生対象のオリエンテーションが行われており、沢山の新生が新しい制服に身を包み、胸に大きな名札(氏名、出身地等が書かれている)をつけて、集団で活動する姿をよく見かけた。この大学を含めて、インドネシアの多くの大学では、最小限必要な指導は学部・学科が行うが、その他の大学生活、授業履修、キャンパス案内、慣習などについては上級の学生が指導するのが通例である。先輩が後輩の面倒をきちんと見るというのがインドネシアのやり方である。これは、有意義な方法であり、筆者の大学・学部でも大いに参考にしたいことである。

またこの大学では、新校舎建設のラッシュである。大学の経営が順調に進んでいる証なのか、凄まじい勢いを感じる。



写真7 新入生オリエンテーション



写真8 新校舎建設風景

Ⅲ. インドネシア教育大学の理数学部（FPMIPA）について

理数学部でも、質の良い学生をより多く確保するために色々な取り組みをしているようである。

例えば、入学試験について、従来は2通りの試験を実施してきた。その第一は、毎年6月頃に行う各学部独自のセレクション（PMDK）で、沢山の高校から送られてくる3年生の成績リストから入学させたい生徒をピックアップする。そしてその生徒宛に入学の意志を確認する通知を出し、生徒が承諾すれば入学させるものである。

第二は、毎年7月に行われる通常の全国統一試験（SPMB, Seleksi Penerimaan Mahasiswa Baru）を受験するものである。

インドネシア教育大学では、さらに今年（2006年）から新たに、第三の方法として、各高校からの生徒の成績リストの中から、トップの生徒若干名を先に入学推薦し、確保し、その上で、独自のPMDKを行い、更に統一試験を行うことになった。

その結果、入学生は3つにタイプがあり、それぞれ入学金等が異なることになる。

理数学部の中の数学教育学科では、従来は1学年約150人の内、50人程度を独自セレクション（PMDK）で取り、残りの100人程度を統一試験で取っていた。しかし、今年から学生定員を増やして212人にし、統一試験で140人程度、独自セレクションで50人程度、第三の新方法で20人程度を合格させたということであった。

それに伴って色々な問題も起こってきている。例えば、急激な入学生数の増加により、教室数が不足し、受講学生が教室に入りきれない状況が起こっている。そのような状況に抗議する学生のデモを見かけたほどである。

また学生数が増えても、教員数は変わらないので、教員の負担が増えることも大きな問題である。

V. おわりに

本論においてインドネシア教育大学の組織、学生・大学院生、学年暦などのデータに基づき、現状を紹介した。インドネシアでも我が国と同様に各大学が徐々に法人化の方向に向かいつつある。

10年計画で徐々に国からの予算が減額され、最後には独立採算になるようである。そのために、より多くの学生や大学院生を確保することが急務となっているようである。しかし、一方で就職等の出口保障をしっかりと行わなければ、学生確保も困難になることは自明である。インドネシア教育大学における状況は他の多くの大学におけるものと大差ないと思われる。ただインドネシア教育大学は多くの高校生に人気の大学なので、学生確保に関してもまだのんびりしている状況かも知れない。我が国と同様に、人気のない大学は生き残りをかけて必死に取り組んでいることは想像に難くない。

〔参考文献〕

- 1) 西谷 泉 『インドネシアの数学教育について—教員養成機関を中心として—』 数学教育学会研究紀要 Vol.39, No.3・4, pp.3-24, 1999年7月
- 2) 西谷 泉 『インドネシアの数学教育について(その2)—学校教育を中心として—』 数学教育学会研究紀要 Vol.39, No.3・4, pp.3-24, 1999年10月
- 3) 西谷 泉 『教育学部と地域との連携した取り組みについて—インドネシア教育大学の取り組み・群馬県内の数学の取り組み—』 群馬大学教科教育学研究 第2号, pp.83-89, 2003年3月
- 4) 西谷 泉 『インドネシアの学校教育—実地調査を基にして—』 群馬大学教育実践研究 第21号, pp.65-74, 2004年3月
- 5) 西谷 泉 『JICA インドネシア初中等理数科教育拡充プロジェクトに協力して』 群馬大学教科教育学研究 第4号, pp.87-96, 2005年3月
- 6) 西谷 泉 『インドネシアの教員養成と学校教育』 群馬大学教育学部紀要自然科学編 第53巻, pp.7-16, 2005年3月
- 7) Universitas Pendidikan Indonesia “BUKU INFORMASI UPI”, 2006
- 8) Universitas Pendidikan Indonesia “Laporan Akhir Jabatan REKTOR UPI 2000-2005”
- 9) 西谷 泉 『インドネシアの教員養成大学における卒業論文について』 群馬大学教科教育学研究 第5号, pp.21-26, 2006年3月
- 10) 西谷 泉 『インドネシアの国立大学の学生による社会奉仕活動(KKN)について—3大学理数学部における現地調査を基にして—』 群馬大学教育学部紀要自然科学編 第54巻, pp.13-20, 2006年3月